

## やまさんの1日++

### — 国際文化学部情報コンセント教室紹介 —

国際文化学部情報論専攻

山崎 智行\*

阪神大震災の影響でこの原稿の提出を忘れていましたが、突然催促のメールが舞い込んだので、急遽震災以前の原稿に加え、震災後の F501 教室の使用状況と震災以前との相違をまとめました。そのため全体としてまとまりがなくなりましたが失礼。震災以前の文章は安物の小説調になっていますのでまた感想をお聞きかせください。ただし次のような生活をしていたのは約1名だけでしたので、その点ご注意願います。

### 震災以前

1月??日

婆さんがまた一人、乗車口から乗り込んできた。10時過ぎともなればバス客のそのほとんどが老人であり、さらに授業に遅れた学生が九、十人吊革にぶら下がって、それでバスはいっぱいになる。私は毎日そんなバスの最後部の席にこしかけ、まだ眠い目をこすりながら大学に行く。国際文化学部前でいつものようにバスを降りる。年明け間もない六甲の寒さは吐く息を一層白くする。高い日の光が眩しい。2時間目の演習に今日は間に合う。

国際文化学部情報論の演習は F501 教室で行われる。94年度の春からこの教室は国際文化学部の学生なら誰でも自由に計算機を使用できる環境にある。私のような「計算機フェチ」には非常にありがたいものである。

D棟の情報科学で F501 教室の鍵を借り、いくつもの学舎を渡り歩いて F501 教室にたどり着く。鍵を開ける。中では "ccs94" のハードディスクの回転音が響き、時に寝返りをうつようにカリカリと音をたてる。ccs94 は国際文化学部学生のメールサーバーとなっている Linux マシンである。部屋の電気をつけ、暖房をいれて、ccs94 のコンソールの前につき、ログインする。途端に ccs94 が目を覚ます。続けて隣にある Macintosh を起動する。ジャーンという和音の後、忙しくハードディスクをひっかき始める。ccs94 から cs に rlogin し、メールを確認する。cs は D棟 621 にある SPARC Classic である。私は icluna にもアカウントを持っているが、フォワードを cs にかけているので、cs でメールを確認すればよい。メールは計算機センターからの連絡事項だけであった。他の大学の友人とメールのやり取りをしたいのだが、ほとんどが文系の学生なのでメールは使えない。今はメールの恩恵はあまり受けていないように思われる。

---

\*yama3@cs.cla.kobe-u.ac.jp

程なく情報論の学生が一人、また一人とやってくる。授業開始の鐘がなり、筒木先生が来られた。それとなく授業が始まる。今日は自分の顔写真を WWW に載るようにするらしい。先日 Quadra840AV に CCD カメラをつないで撮影し GIF 形式で保存した顔写真を、Fetch で ccs、つまり WWW サーバに転送する。その後 ASLtelnet で各自ログインする。vi で HTML の書式で書かれたテキストファイルを編集する。vi はモードの切り替えが面倒なので慣れるまでややこしいが、一度慣れてしまえば結構使いやすいエディタである。最近では DOS の Vz を使うときでさえ、しきりに ESC キーを押してしまったり、「jjjjjjj.....」と並べたりしてしまう。編集が終われば ZZ で変更箇所を保存しつつ vi を終了する。思惑通り顔写真を WWW で見ることができかどうか、Mac の上から Mosaic を起動し、OpenURL で <http://ccs.cla.kobe-u.ac.jp> に接続する。自分自身のページにうつる。しかし不運にも顔写真は表示されない。telnet セッションに戻り、ls コマンドを実行する。GIF ファイルは確かにある。less で HTML 書類を開き GIF ファイルのパスを確認する。間違いはない。なぜ見えない？さらに ls -al コマンドを実行する。はて、GIF ファイルの 'o(others)' のリードパーミッションがついていない。これでは Mosaic で見えるはずがない。chmod +r kao.gif でパーミッションをつける。再び Mosaic でアクセスする。今度はちゃんと見ることができた。しかしこの締りない顔を世間様に公開するのは少々辛い。あとで Photoshop で写真を加工して、それを公開することにしよう。ところで他の学生はできただろうか。4、5 台の Mac を見てまわる。telnet をやっている。彼らは今までに telnet をしたことがなかったので、少々てこずっているようだ。私は彼らの隣に座って、いろいろ手伝う。どの学生も万遍なく手伝わなくてはならぬと思いつつも、知らず知らずのうちに女子学生だけを手伝っている。いや、情報論の学生は、というより国際文化学部の学生は女子の割合の方が多いので、勢い女子学生を手伝うことが多くなるのだ、と自己弁護しておこう。

学生のページすべてに顔写真が表示されるようになると、既に 12:30 をまわっていた。今から食堂に行ってもきっと満員だろう。私はいつも昼食は一人で取る。1 回生の頃は友人何人かで昼食を取っていたこともあったが、専攻が決まり F501 に出入りするようになってからはそんなことはほとんどなくなった。学部生のなかでおそらく私は「おたく」で通っているに違いない。ついこの間も「Mac が恋人なんだね。」と冗談を言われる始末である。もちろん、計算機と一夜を伴にすることが多いので、当たらずとも遠からじ、ではあるが。

結局今日はカフェリアで買ってきたパンを F501 でかぶりつくことにした。冷めたホットドッグを噛り、それを牛乳で流し込みながらニュースを読む。ニュースを読む方法は様々であるが、私は Mac の NewsWatcher で読む。まず fj.sys.mac のニュースグループを覗く。PowerMac の話題が時折目につくが、まだまだ少ない。次に fj.windows.ms に珍しく目を通す。私は Mac 派なのでこのニュースグループはほとんど読んでいない。しかし、Chicago の動向もある程度気になるので目を通してみる。当初 Chicago は '94 年中にリリースされると言われていたのが遅れに遅れ、'95 年にずれ込み、Windows95 と銘打ち、さらにまた延期されるようになった。果たして日本語版は Windows95 と成りえるだろうか。一方 Chicago が遅れている間に Microsoft は Daytona、つまり WindowsNT3.5 をリリースした。ニュースグループも雑誌も NT3.5 の話題で持ち切りである。試しに今晚は ccs94 に WindowsNT3.5 の試食版をインストールしてみるか。

今日はどうも Mac のマウスの調子が悪い。そろそろマウスを掃除しなければならない。Mac

を停止させてマウスの底蓋を開ける。マウスボールの接点に汚れがこびりついている。私はマイナストライバーで部品を傷つけぬよう慎重に汚れを取る。マウスの掃除は耳掃除に似ている。幼い頃はよく母親に耳掃除をせがんだものだ。せっかく取った耳垢が奥に落ちて頭を振るように、マウスを振ってごみを落とす。ボールを元に戻し、底蓋を閉じる。Mac 起動する。ポインタが雪原にはしゃぐ小犬のように転げ回る。

木曜午後 5:00。この時間は F501 グループの活動時間である。F501 グループとは国際文化学部の教官と学生で構成される、まあ一種の勉強会みたいなものである。この時間に集まるグループのメンバーは情報論の学生を中心としてほしい 6~7 人であるが、普段はみんな自分の空き時間にやってくる。私達はそれぞれ自分の興味あることに取り組んでいる。Hypercard で CD タイトルの見出しをつくる。授業のレポートやクラブの会報をクラリスワークスで仕上げる。Mosaic で世界中のサーバを見て回る。WWW のサーバに自分の文章を掲載する。Photoshop で画像を加工する。たまには息抜きに anonymousFTP で取ってきたフリーのゲームで遊ぶ。F501 グループのメンバーは F501 の資源を有効に利用しようとしている。先程 F501 グループは一種の勉強会だと説明したが、それは誤りかもしれない。公共資源の有効利用というのが最も確かな説明だろう。

学生は気ままに立ち寄り、寛ぐ。友人との談話を楽しむ。待ち合わせの場所となる。F501 はそんな教室である。一般に計算機の部屋といえば殺風景な冷たい部屋に計算機が立ち並び、学生は皆一心にモニタを睨んでいるような印象を受ける。しかしこの部屋には暗い印象はまずない。「計算機室」という堅苦しさとは一切無縁の、ラフな空気での部屋はできている。F501 の Mac を利用するすべての人が、気の向いた時にやってきて好きな時間だけ Mac に触れる。この気安さが失われぬよう、私は F501 グループの代表者として常にここに滞在する。UNIX カーネルはユーザやプログラムにサービスするため物理メモリ中に常駐しなければならないのである。

日によって異なるが、ほしい午後 7:00 ともなれば F501 グループの学生のほとんどは帰途につく。私の本当の時間が訪れる。日中私はこの部屋に来る者の質門に答えねばならない。苦痛には思わないが、私自身の目的はその間中断せねばならない。最近ではグループの学生が私を利用せずとも問題解決できるようになり、さらには私の代わりに初心者質問に答えてくれるようにさえたが、それでもやはり中断される機会は多い。夜こそ私の活動時間なのである。結果的に下宿に帰るのは遅くなる。あまりに遅いのでそのまま泊る。翌朝、学生に起こされる。F501 がそのままねぐらとなる。年賀状の自分の住所欄に鶴甲 1 丁目 F501 教室と冗談で書いた。友人は私が引っ越ししたと勘違いし宛先をそのまま書いて投函した。年明けに授業が始まってすぐ私は事務室に呼び出された。「君ね、こんなものが届いてるんだけどね」。とうとう年賀状まで F501 教室に届くようになったか。

今晩は昼過ぎ予定した WindowsNT3.5 体験版を ccs94 にインストールしよう。NT3.5 の体験版は雑誌の付録として供給されている。最近では OS の体験版をばらまくのが流行となっている。OS/2WarpJ3.0、Mac の System7.5 もそうである。新製品を内容確認してから購入できるのは非常にありがたい。

ccs94 には Linux 以外にも DOS/V+Windows3.1 がインストールされている。通常 Linux でブートするには zImage の入ったフロッピーを A ドライブに挿入する。マシンは自動的に Linux カーネルを解凍し、Linux を起動する。DOS/V で起動する時はフロッピーは挿入しな

い。そうして、CドライブのIDEのハードディスクにインストールされたPC-DOSが起動する。IDEのハードディスクは論理パーティションが切られてあり、それぞれがC:、D:となっている。今回はDドライブにNT3.5をインストールする。

DOS/Vでリブートし、インストールCD-ROMを挿入する。CD-ROMの中にあるドキュメントを読む。インストールの手順が書いてある。DOSでフォーマットされたフロッピーを4枚、生のフロッピーを1枚用意する。NTは各種プロセッサに対応しているので、このマシンのプロセッサ、iX86用のディレクトリに移動してwinnt.exeを実行する。後はインストールプログラムの指示に従う。1時間位でインストールは終わった。ここで、WindowsNTのウリであるネットワークの設定の前に腹ごしらえといこう。

この時間では生協の食堂はすでに終わっている。国際文化学部の前には手頃な食事場は無いので、今日は工学部の前にあるカップラーメンをすするしかないようだ。もっと早い時間に食料を調達しなかったことに後悔する。工学部の前の自動販売機はいつもフォークがきれている。こんなこともあろうかと私は常に割り箸を鞆に忍ばせている。割り箸を握り締めて工学部に向かう。寒い工学部の前ですするカップラーメンの味が格別であることを私はいつか思い出す日があるのだろうか。

帰りがけ缶コーヒーを買う。こはく色の液体燃料は冷えきった体を暖めるには至らなかった。F501にたどり着く。室内の暖房で生き返る。ccs94の前につく。ネットワークプロトコルの一覧が表われている。私は今のところTCP/IPとAppleTalkしか使っていない。F501にはMacとLinuxしかないためである。NetBEUIやらIPXやらは守備範囲外である。TCP/IPの設定に取りかかる。IPアドレスを設定する。ClassをBに設定する。ネットマスクを255.255.255.0にかける。ゲートウェイのアドレスを設定する。ドメインネームサーバをportkobeに設定する。次にFTPサービスを開始する。AppleTalkプロトコルサービスを開始する。F501にはゾーンが切られていない。そこで、ゾーンの設定は空白にした。LinuxにはCAPをインストールしているが、最初にarpdを起動する際、便宜上実在しないゾーンを指定している。できればゾーンを切ってほしいものだ。

WindowsNTをリブートする。最初にOS選択のプログラムがスタートし、そこでNT3.5かDOSを起動するかを選択する。放っておくと自動的にNTが立ち上がる。NTはlogin、もといログオンしてから作業を始める。NTには標準でtelnetとFTPのクライアントアプリケーションを持つ。csにtelnetしてみる。ちゃんとつながる。FTPを試す。これもうまくいった。上出来である。次にAppleTalk上のプリンタを共有できるか試す。プリンタを設定する。テキストファイルを印刷する。プリンタのインジケータが点滅する。出力するまでの沈黙が緊張を誘う。CAPのインストールにおいて、インジケータが点滅するにもかかわらず、その後何も出力しないことがあった。しかし、そんな不安を打ち消すようにプリンタのモータの回転音が鈍くうなる。テキストファイルの内容が正しく出力された。

その後小一時間程NTを散策したか。時計を見る。短い針が今にも垂直になりそうだ。瞼が重い。目が宙をさまよう。今日も泊りになってしまうのか、。。。。。

と、まあ地震前の私はこんな生活を続けていましたか。この他公表できないこともなくはないですが、それはまたの機会にということで、震災後F501教室がどのように変化したかをレポート風にまとめました。

## 震災後

### 震災後から現在までの F501 教室の使用状況

震災後、国際文化学部の約 15 名の学生が集まり、F501 教室の計算機を使用してのボランティア活動を展開してきました。

活動の内容の主なものとして、

- Internet や商用パソコンネット上のニュースグループやフォーラム、震災メーリングリストからのメールの参照、またそれらに意見を投稿。
- WWW に震災直後の写真等を公開。
- 計算機に加え、アマチュア無線や電話など使用できるあらゆる手段を用いて生活情報を取得し、編集して「VN 通信」と称したミニコミ紙を各ボランティア、避難所に FAX で配布。
- 神戸市内の情報を集め編集し「情報ファイル」として、神戸市内の大きなボランティア団体に配布。

が、挙げられます。特に最後の「情報ファイル」の配布は F501 ボランティア活動として大きなものなので少し補足しておきます。

### 情報ファイルについて

#### 1. 目的

FAX サービスで供給される公共団体からの情報（たとえば神戸市発行の「あじさいネット」や運輸省からの交通状況など）は受け取るのに非常に時間がかかり、ボランティア団体独自で得るのは困難でした。また新聞についてもボランティアをする人は読む時間がない、という状況でした。

そこで受け取りにくかった公共団体からの情報や新聞から抜粋したイベント情報を、ボランティアにもっと受け取りやすい手段で提供できないものか、というのが我々の最初の目的です。

#### 2. 方法

まず、FAX サービスは受け取り、約 20 部ほどコピーします。新聞に掲載された情報は一つ一つ打ち込んで、まとめます。さらにこれらを項目別に分けて整理し、一冊のファイルとしてまとめます。次にできたファイルを自分たちの足で各ボランティア団体に配布してゆきます。

更新される情報については、更新分だけを上と同じ要領でつくって、また足で配布します。

#### 3. 各ボランティアの反応

どこのボランティア団体からも好評でした。「FAX サービスがあるのは知っていたが、こんなふうにまとまっているのは便利である。」というのが圧倒的な意見でした。

我々の情報ファイルの配布は3月いっぱいをもって終了しましたが、それを残念がるボランティアの方もいました。彼らには情報ファイルの更新方法をマニュアル化して行って行きました。

## 震災のボランティア活動による F501 教室使用の変化

震災によって、F501 教室は震災以前とは違った状態で使用されるようになりました。変化した状況のうち良くなった点は、

- F501 教室の計算機についての大まかな使用方法をボランティア参加の学生が習得し、彼らが中心となって F501 教室を事実上管理し、新しく参加してきた学生に計算機の使用法を効率良く教えることができたこと。
- ボランティアの参加という F501 教室使用者共通の「目的」ができ、その目的を達成することの一貫として計算機の使用が必然になったことで、自然に計算機を使用する機会ができたこと。
- F501 の計算機を使用する学生が、以前の情報論学生中心型から、さまざまな専攻講座の学生になったこと。
- ボランティアに貢献することで F501 教室の計算機を利用した活動の成果を明確にでき、評価されたこと。

などです。ボランティア活動において、F501 教室は非常に有効に活用されました。春からも F501 教室では F501 グループの活動を積極的にやっていきたいと思っています。それではまたお会いしましょう。

logout

国際文化学部情報論専攻 93 年入学 山崎智行 (yama3@cs.cla.kobe-u.ac.jp)

## 解説

### (1) 国際文化学部情報コンセント教室の管理／運営について

国際文化学部情報コンセント教室（以下、F501 教室）は、同学部ネットワーク委員会（委員長：定延俊之）の管理下にある。同教室は、授業時以外は本学部の学生ならびに教職員に開放している。同教室を利用する者は、F501 グループというユーザーグループ（教官代表：水谷雅彦、学生代表：山崎智之）に加入することを義務づけられている。F501 グループは、その会員規則に基づき、F501 教室や機器の整備などを自主的に行なっている。つまり、同教室は、授業用の教室としてだけでなく、本学部構成員の共有資産として利用されており、利用者が自主管理を行なうことにより教育ならびに研究用施設としての機能を両立させている。

## (2) 構成機器

F501 教室の機器は、すべて 10Base-T でネットワークに接続されている。電子メールや gopher、WWW などのネットワークサービス、ならびに、マルチメディアサービスを利用を重視した機器／ソフトウェア構成になっている。

主要構成機器は、次の通り

AV MAC	21
DOS/V パソコン	2
PS プリンタ	2
カラープリンタ	1
イメージスキャナ	1
フィルムスキャナ	1
CCD カメラ	1
ビデオカメラ	1
OHP 装置	1
マルチスキャンコンバータ	1
ビデオデッキ	1